

経営比較分析表（令和3年度決算）

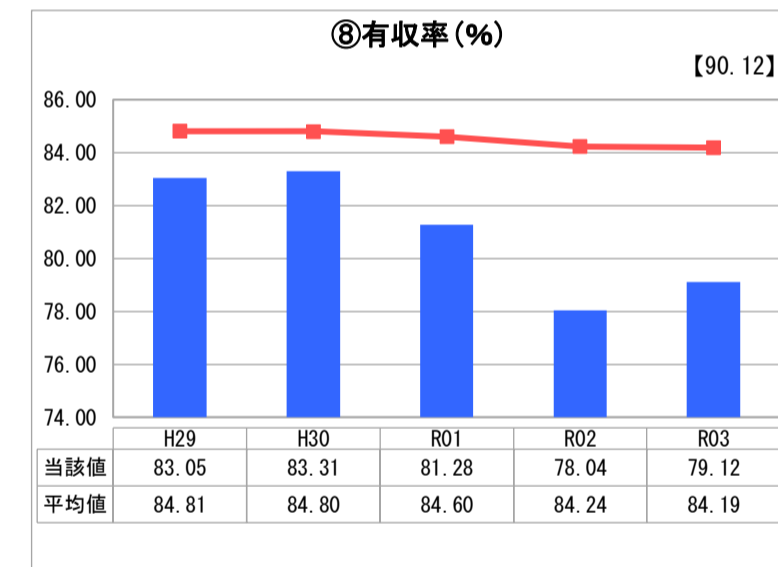
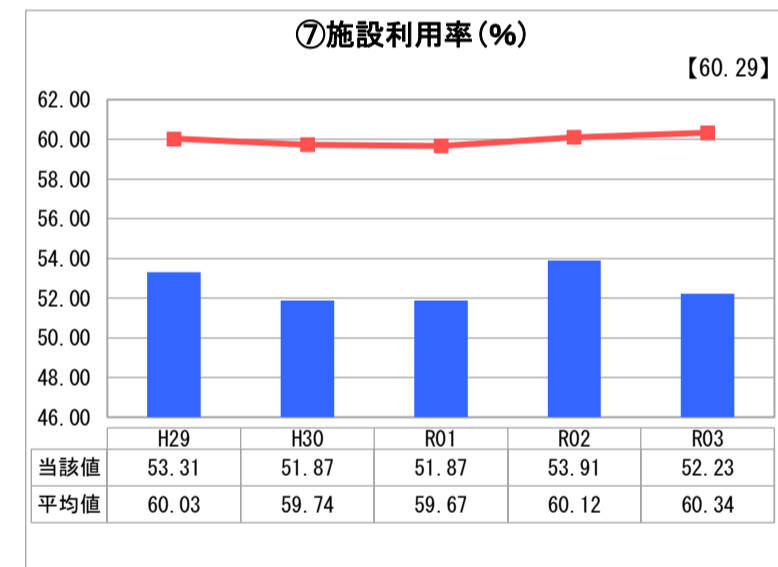
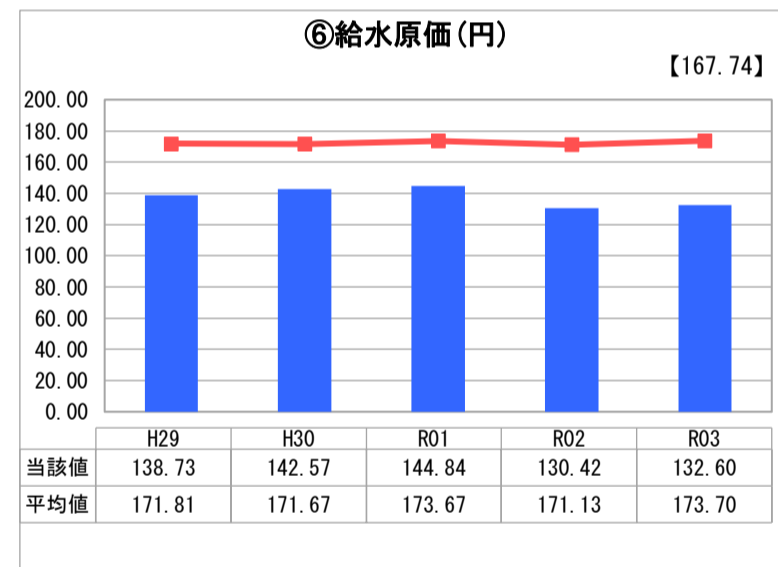
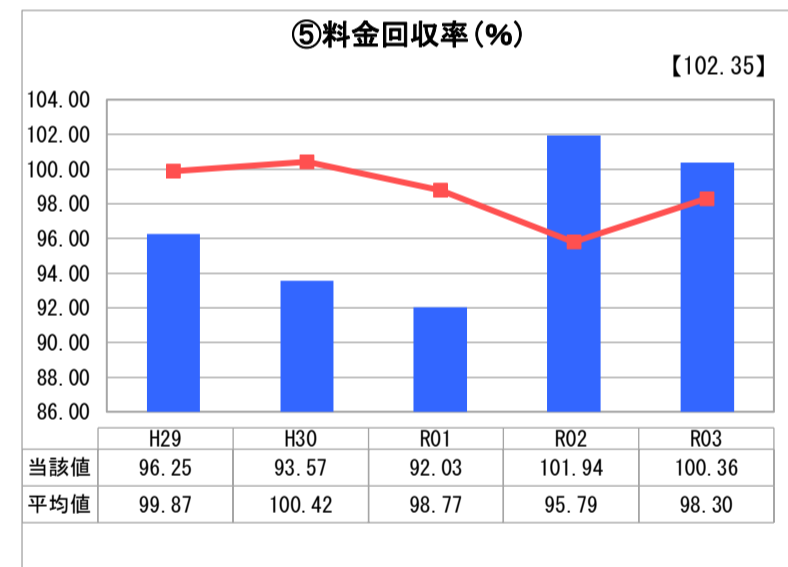
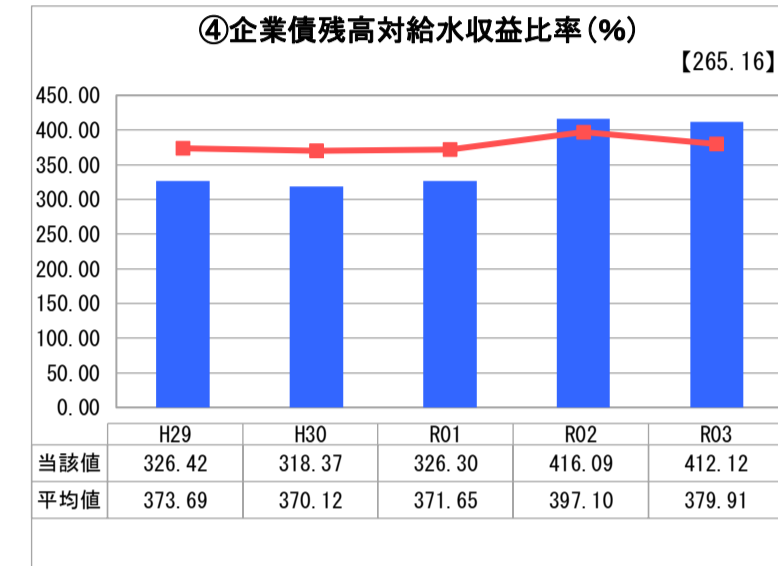
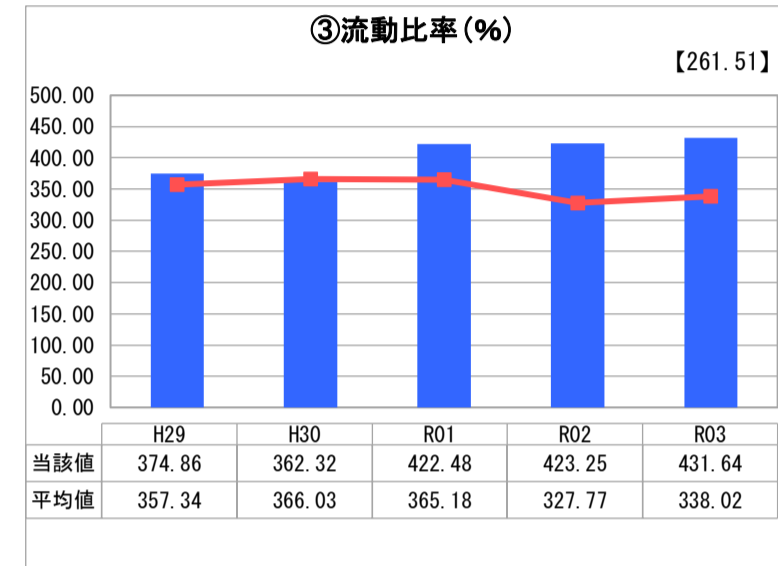
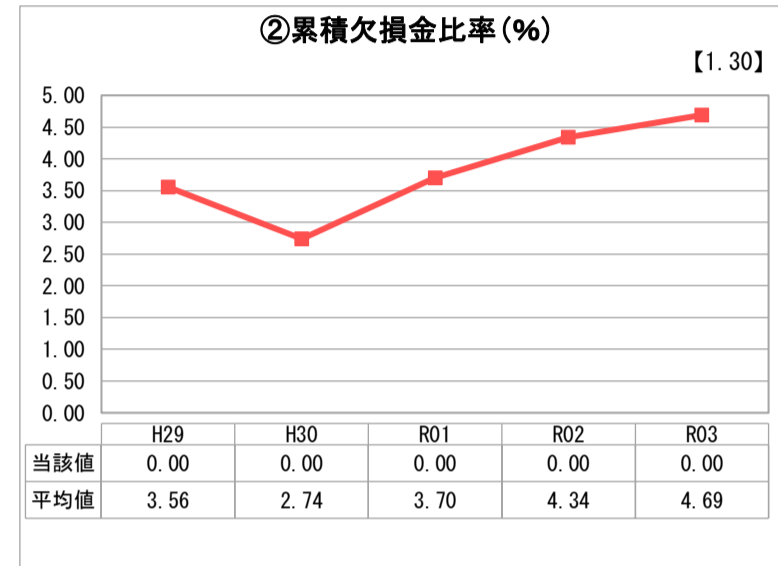
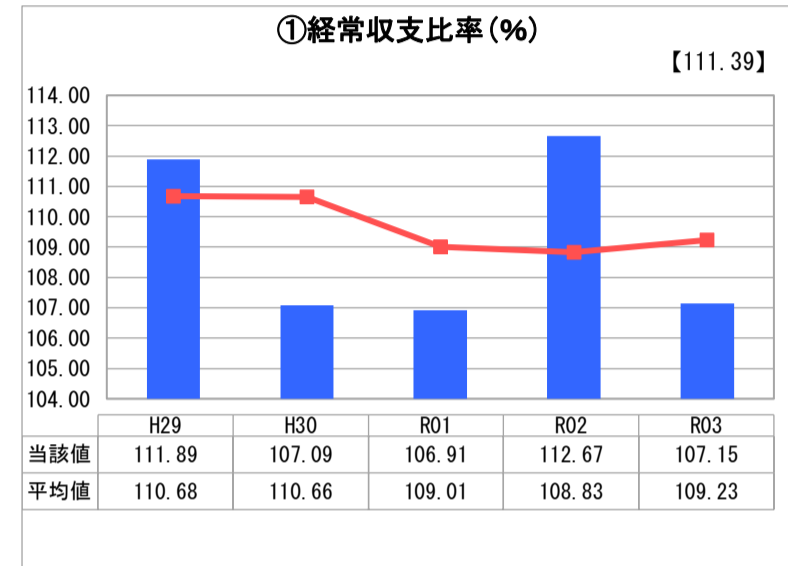
鳥取県 倉吉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.06	96.49	2,356	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,574	272.06	167.51
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
43,709	67.20	650.43

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、人口減少に伴う給水収益の減及び配水管撤去工事等の費用増により、前年度と比べて悪化した。

② 累積欠損金比率は、欠損金が発生しておらず0%となっている。

③ 流動比率は、400%以上となっており、短期的な債務に対する支払能力が高いといえる。

④ 企業債残高対給水収益比率は、令和2年度から簡易水道事業を会計統合したため、企業債残高が増額となり比率が増加している。なお、必ずしも類似団体の全てが簡易水道事業の会計統合をしているわけではないので、他団体との単純な比較はできない。今後の給水収益は減少を見込むため、適正な投資規模の検討が必要。

⑤ 料金回収率と⑥ 給水原価は、人口減少により給水収益が減少傾向であるため、料金回収率は年々減少することが予想される。

⑦ 施設利用率は、おおむね横ばいで推移している。しかし、類似団体平均値と比べて利用率が悪く、施設更新の際にはダウンサイジングが必要。

⑧ 有収率は、年度により多少のバラつきはあるが、減少傾向にある。この一因として、給配水管の老朽化による漏水が考えられる。

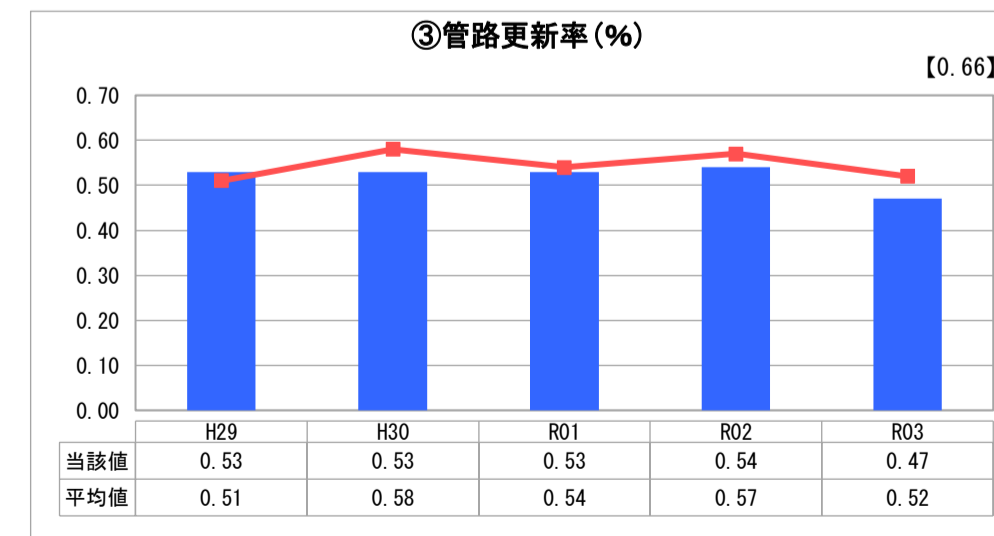
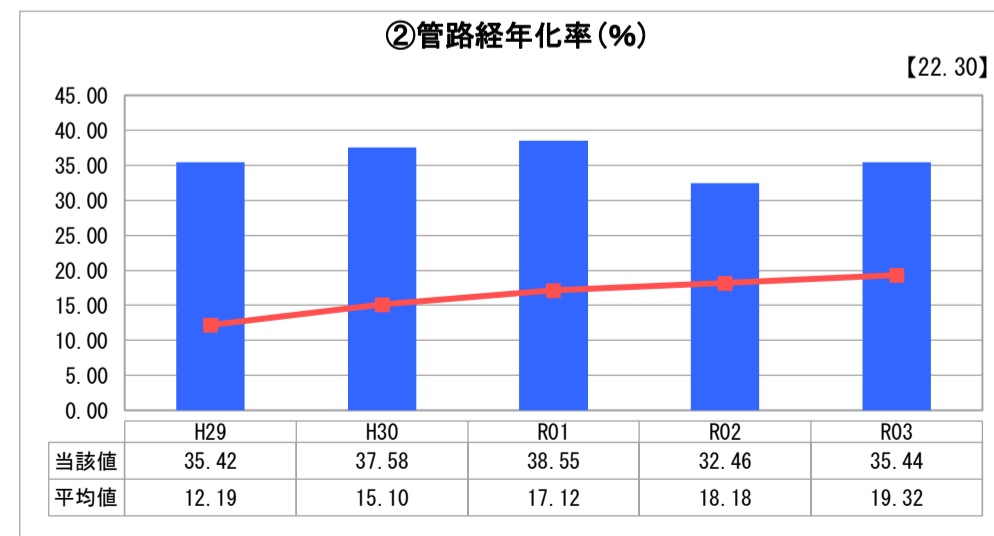
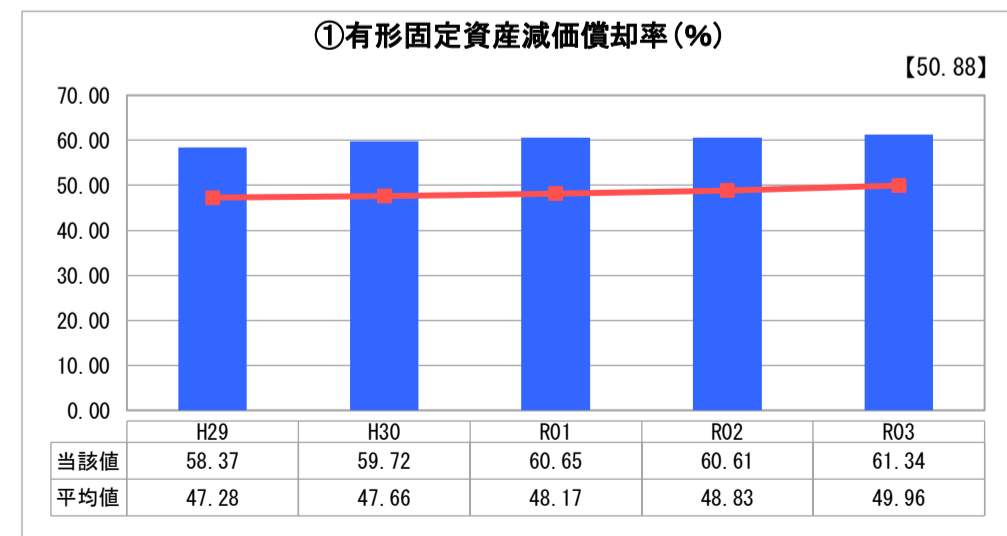
2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、年々増加しており、また、有形固定資産の70%超を占める配水管において法定耐用年数を超えたものが増加傾向にあり、類似団体平均値と比較しても非常に悪い状態である。

② 管路経年化率は、令和2年度から簡易水道事業を会計統合したため一時減少したが、増加傾向にあり、類似団体平均値と比較しても悪い状態である。

③ 管路更新率は、毎年3～4km程度の更新を行っているが、今後も整備以上に耐用年数経過管路が増え続けることとなるので、更新計画の見直しが必要。

2. 老朽化の状況



全体総括

令和2年度から簡易水道事業に地方公営企業法の全部を適用し、上水道と一つの会計で経理している。

令和2年度末に策定した経営戦略（簡易水道事業を含む）に基づき、また、近隣の水道事業者との広域連携を検討しながら、施設のダウンサイジング、管路等の長期的な更新計画を見直し、料金改定等を勘案して財政計画とのバランスをとった運営を行う必要がある。